

2023年度 需要実績見込

(一社)日本塗料工業会 事務局作成

2023年度は、主要メーカーへの需要動向アンケートの結果及び2023年12月までの経産省統計値から、塗料需要の実績見込を前年度比98.0% (1,255千トン)と見込む。

※前年度実績値(2022年)は製造業実態調査から得られた推計値1,281千トンを使用。

需要産業区分		予測数量 (千トン)	前年度比	前年度比算出根拠 (メーカーコメント参照)
建 物		327	98.0%	資材価格の高騰が大きく影響した上、職人不足の要因もあり需要を押し下げている。新築・塗替え共に低調で、特に戸建て関連は消費マインドの冷え込みもあると見られ前年比微減となった。
建築資材		66	88.7%	不動産や建築価格の上昇により住宅着工件数の減少が続き、市況も低迷した。特に新設物件の低調で、主力のアルミ建材、PCM建材の不調もあり、前年比減の見込み。
構造物		80	100.5%	新設は公共・民間需要とも減少傾向が続いたが、塗り替え需要は特に橋梁で堅調に推移し、工事物件の発注量増もみられ、全体的にはほぼ前年並みを見込む。
船 舶		103	103.1%	海運業界の活況もあり、特に大型の修繕で販売量増が見られた。新造は堅調で、全体として前年比増加の見込みである。
道路車両	新車	243	111.6%	半導体不足の影響から脱し、国内自動車生産活動は上向いている。その他関連部品の供給不足等不安要素も一部にはあるが、大きく前年比増の見込み。但し不正問題の今後の影響を懸念する。
	補修	31	94.6%	安全装置の普及によるボディショップの入庫数減少が続いており、さらに消費マインドの冷え込み、作業人員の人材不足もあり、前年比減となった。
電気機械		32	100.6%	半導体不足も緩和傾向で、配電盤、自販機等の需要回復はあるが、諸物価高騰も影響し、デジタル・家電製品中心にやや低調に推移し、ほぼ前年並みを見込む。
機 械		54	93.4%	建設機械や農機の大幅な落ち込みもあり需要減の傾向が鮮明であった。半導体不足の緩和で好調な分野も一部にはあるが回復には及ばず、前年割れを見込む。
金属製品		93	91.3%	鋼製家具・PCMを中心とした市況低迷に加え、自動車内装用製品も減少、外需も鈍化傾向にあり前年を下回る見込みである。
木工製品		12	88.8%	原材料高騰による値上げの影響で数量は大幅減となる見込み。物価高による消費者マインドの冷え込みと巣ごもり需要の終了で家具などの売れ行きも悪化した。
家庭用		27	97.1%	新型コロナの5類へ移行後、個人消費の回復も見られたが、物価上昇・円安の悪影響でホームセンター関連の不況が長引き、前年減の見込み。
輸 出		56	85.5%	中国市況の減速に伴う自動車減産ならびにベトナムの景気悪化もあった。コロナ禍後の若干の回復傾向はみられたものの、塗料関連輸出の需要が押し下げられ、前年比減となった。
路面標示		68	98.9%	公共事業を中心に前年並みの売り上げ維持ができたが、トラフィックペイント、すべり止め工事などは低調に推移し、前年微減の見込み。
その他		63	83.0%	皮革市場は低迷が続き、その他市場も好材料に乏しく、減少の見込み。
合 計		1,255	98.0%	コロナ禍の需要減から回復は見受けられるものの、全体的には消費低迷により出荷数量は減少傾向であった。特に自動車産業は回復が顕著であったが、その他業種では船舶以外、各種工業用、建物、構造物も需要増には至らず、前年度より微減の見込みである。

2024年度 需要予測

(一社)日本塗料工業会 事務局作成

2024年度は、公表されている政府、民間の経済見通し及び主要需要産業の2024年度の景気動向予測、並びに主要メーカーへのアンケート結果から前年度比100.0%（1,255千トン）と予測した。

※2023年度需要実績見込の予測数量を1,255千トン（前年度比98.0%）として計算。

需要産業区分	予測数量 (千トン)	前年度比	前年度比算出根拠（メーカーコメント参照）	
建 物	340	104.1%	賃上げや株価上昇による経済の好循環並びに国内政策による各種助成も進み個人消費も回復し、マンション大規模修繕や都市再開発の活性化等、需要増を見込み前年比増を予想する。	
建築資材	65	98.2%	国内向け建材需要は回復傾向にあり、都市部を中心とした再開発需要増を期待するが、住宅着工件数の減少は継続する見通しで、状況としては厳しく微減を予想する。	
構造物	80	100.0%	橋梁やプラント、鉄塔等、回復も期待されるが、市況としては横ばいで鋼材量の予測からも前年並みの見通しである。	
船 舶	97	94.0%	修繕は堅調で前年並みを見込むが、新造は海外造船所との競争激化や海運市場の落ち着きもあって、全体的には前年減となる予想。	
道路車両	新車	238	98.2%	前年度の国内自動車生産台数増が一段落するとともに、検査不正問題も若干影響し、微減を予想する。
	補修	32	101.6%	処理台数はほぼ前年並みと見られるが、環境配慮型塗料などの新製品投入や大型架装・産業機器分野でのシェア拡大も図り、微増を予想する。
電気機械	32	100.2%	半導体やその他関連産業の好調も期待されるが、原材料価格の高騰の影響は継続すると考えられ、全体的には回復が遅れ、出荷数量は前年並みを見込む。	
機 械	53	98.5%	新規案件や外需の回復等に期待するが、建機・農機市場の需要減速は続くと思われ、前年比微減を予想する。	
金属製品	94	100.2%	PCM関連の需要回復や半導体供給の正常化による関連産業の好調も見込まれるが、全体市況には大きな変化はなく、前年並みを予想。	
木工製品	12	101.6%	需要減、資材値上げによる買い控え等は来期下げ止まりを予想する。国内の好況感による内需活性化に期待もあり、前年微増を予想する。	
家庭用	27	101.5%	円安・物価上昇の基調は変わらず、2024年問題の影響もあるが、個人消費の回復やメーカー各社のホームセンター・建材マーケットでの拡販も期待され、前年微増を予想。	
輸 出	56	99.5%	中国経済の失速は回復せず、その他市況環境も変化無く、前年度並みを見込む。	
路面標示	68	99.0%	原材料の高騰で販売価格を値上げする必要もあり、荷動きは鈍化が見込まれる。公共事業を中心に拡販活動を行い販売増を目指す、ほぼ前年並みを予想する。	
その他	62	98.3%	皮革、紙製品その他市場の大きな変化はなく、微減を予想する。	
合 計	1,255	100.0%	原材料や諸物価高騰、労働力不足、2024年問題、為替動向など先行きの不透明感は一掃されないと考えられる。出荷金額は上昇基調が継続することが予想されるが、数量もあわせた増加までには至らず、また自動車新車も不祥事からの回復に時間を要すると見られ、全般的には前年並みと予測する。	